

業績ハイライト

2022年9月中間期の決算

当行単体の業績につきまして、経常収益は、貸出金利息や有価証券利息配当金の増加を主因として資金運用収益が増加したことや、役員取引等収益が増加したこと等により、前年同期比12億16百万円増加し198億32百万円となりました。

経常費用は、営業経費や、貸倒引当金繰入額の減少を主因としたその他経常費用が減少したこと等により、前年同期比16億66百万円減少の134億60百万円となりました。

この結果、経常利益は、前年同期比28億82百万円増加し63億72百万円となりました。

また、中間純利益は、経常利益の増加を主因に、前年同期比27億40百万円増加し50億26百万円となりました。

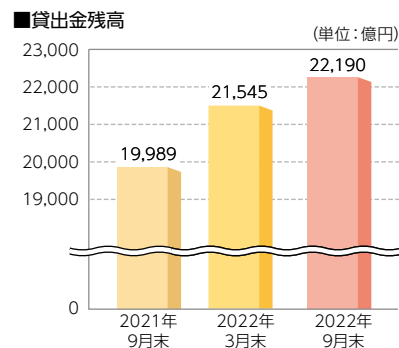
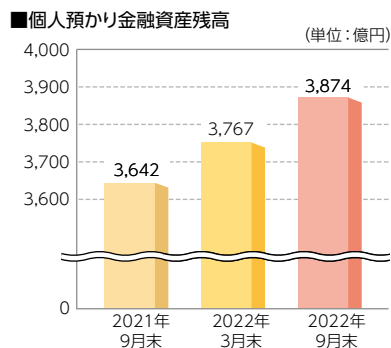
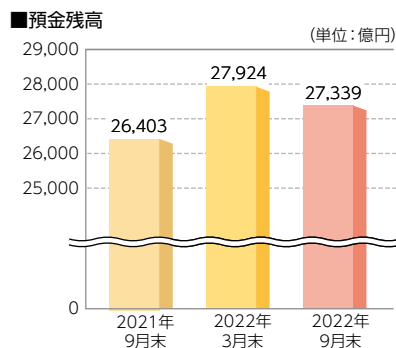
なお、連結経営成績につきましては、連結経常収益で前年同期比12億3百万円増加の234億39百万円、連結経常利益で前年同期比27億46百万円増加の61億63百万円、親会社株主に帰属する中間純利益で前年同期比26億48百万円増加の47億12百万円となりました。

預金・貸出金等の状況

2022年9月末の預金残高は2兆7,339億円となり、前年同期比935億円増加、2022年3月末比585億円減少しました。また、個人預かり金融資産残高は3,874億円となり、前年同期比231億円増加、2022年3月末比107億円増加しました。

2022年9月末の貸出金残高は2兆2,190億円となり、前年同期比2,201億円増加、2022年3月末比645億円増加しました。

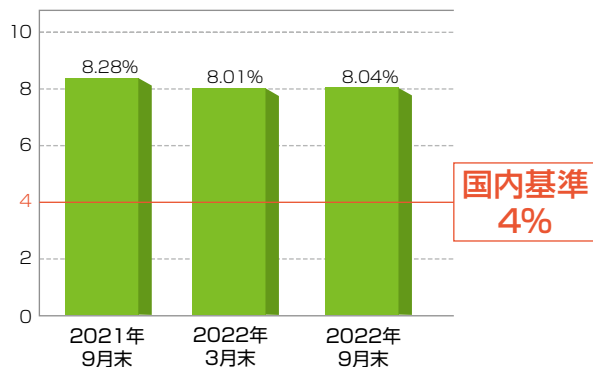
(注)個人預かり金融資産残高は、投資信託、生命保険、公共債の合計であり、外貨預金は含んでおりません。



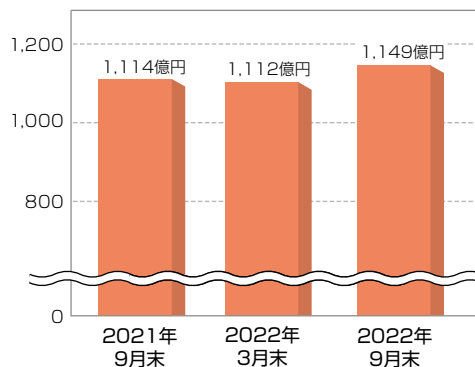
自己資本比率

■ 2022年9月末の自己資本比率(国内基準)は、2022年3月末比0.03ポイント増加し8.04%となりました。

■自己資本比率(国内基準)



■自己資本額(国内基準)



不良債権の状況

■ 債権総額中に占める金融再生法開示債権(いわゆる不良債権)の比率は、2022年3月末の2.04%が2022年9月末には1.92%となりました。

なお、当行は部分直接償却を行っておりませんが、部分直接償却を行った場合のこの比率をみますと、2022年9月末で1.76%(2022年3月末では1.86%)となっております。

■2022年9月末の不良債権の状況

